

人権に関する作文・絵画(小中学生の部)入選作品

すべての市民の基本的な人権が尊重され、差別のない明るく住みよい町の実現に向けて、人権に関する標語、絵画、作文を募集しました。その中から、入選作品を随時紹介します。(学年は令和2年度のものです。)



東ときわ台小学校 5年 高橋 咲星



吉川小学校 6年 藤原 雅人

差別をなくすためにできること

吉川中学校 2年 青木 美緒

最近、新聞記事やバスの車内広告など、日常生活をしていく中で「SDGs」という言葉をよく耳にする。SDGsという言葉自体の意味は(世界をよりよくする為に達成しなければならない目標のことなのか)程度しか知らなかったし、深く考えたこともなかった。そんな私がSDGsをもっとよく知ろうと思ったきっかけは、SDGsが掲げる17のグローバル目標の一つに興味を持ったからだ。

SDGsのグローバル目標に「ジェンダー平等を実現しよう」というものがある。これはその名の通り「男女平等に暮らせる社会を作っていく」ということが言いたいのだと思う。逆に言えば、今はまだそれが実現できていないということになる。

私は、「差別」という言葉が嫌いだ。歴史を振り返ってみると、人類は差別を繰り返してきた生き物だということが分かった。肌の色や生まれた場所で人を値踏みし、差別する。最近になってよく見るのは、新型コロナウイルスの感染者や医療従事者への心無い暴言や誹謗中傷だ。

どれも許すことのできないものだが、私が特に腹立たしさを覚えたのは、性的マイノリティの人々に対する差別だ。性的マイノリティとは、同性が好きなお人や自分の性に違和感を覚えている人などのことを指す。性別は自分で決められるものではないし、好きな人を選ぶ権利もその人にあると思う。それを他人に特別な目で見られたり十分な理解が得られない現状には疑問を感じる。

その中でも、私たちが暮らす国・日本は先進国の中でも特に遅れていると聞いた。日本では、同性婚は認められていない。その代わりに、「パートナーシップ制度」という、事実上結婚したという証明書が発行されるが、導入しているのは8都市だけである。

政治の面でも女性の進出が遅れている。これからの日本の政治を担う子供たちの為に学校などでSDGsの教育をもっと授業などに取り入れたりすることにより、性的マイノリティに対する正しい知識と理解をもっと深めることができるようになると思う。何かと「多様性」というキーワードが重要になってきている今、SDGsの教育はすごく意義のあることだと思う。この教育をすることにより、性別同士に平等な関係が作られ目標達成へと一歩前進すると思う。

私が今提案したことは、私たち個人で取り組むことというより行政を含めて社会全体で取り組んでいくことだ。では、私たちにできることは何もないのか?そうではない。一人一人ができることだ。自分とは違う人を馬鹿にしたりせず、受け止めることだ。これは、性的マイノリティの方への差別に限らずすべての差別においていえることだ。一人一人が互いの違いを認め合うことで、差別というものは少しずつ減っていくと信じている。



密閉:密閉空間
密集:密集場所
密接:密接場面

新型コロナウイルス 感染予防対策のお願い

いつもご協力
ありがとうございます。

手洗い
マスクの着用
こまめな部屋の換気



町の木/スギ



町の花/タンポポ



町の鳥/ウグイス



町の面積

34.34km²

	人口	男	女	世帯数	
人 の 動 き	R3.2月末日	19011人	9078人	9933人	8650世帯
	前月比	-58人	-26人	-32人	-18世帯
	人口前月比の内訳	転入等	転出等	出生	死亡
		24人	59人	3人	26人

ホームページアドレス: <http://www.town.toyono.osaka.jp/> この広報紙はリサイクル紙を使用しています。